

2015年度と2016年度の第二学期には、韓国と日本から招聘された学者の参加を得て、それぞれ国際シンポジウムが開催された。その論文および討議資料は、ワンアジア・フォーラムの諸プロジェクトの内容をさらに豊かにしている。現在、シンポジウムに提出された諸論文は収集・編集されて出版の準備が進められている。この出版物は、ワンアジア財団が過去2年間に惜しみなく資金提供されたUBC「ワンアジア共同体」プロジェクトに永続的なインパクトを刻ずることになる。

ブリティッシュ・コロンビア大学：アジア研究 410

近代以前の東アジアにおける国際関係

人とモノの流れから見たワンアジア共同体

実施期間：2017年9月～11月

- 第1回 「主要な概念と理論」  
(9月07日) Nam-lin Hur (ブリティッシュ・コロンビア大学、教授)
- 第2回 「帝国主義時代と前近代の文化メッセンジャー：朝鮮のダンサー、Ch'oe Sunghui と世界」  
(9月14日) Judy Van Zile (ハワイ大学名誉教授、アジアの舞踊)
- 第3回 「前近代の日本と東アジア：前近代の中国と朝鮮への日本旅行者」  
(9月21日) Thomas Conlan (プリンストン大学教授、東アジア)
- 第4回 「エスノセントリズムと東アジア史の集団的記憶：戦争、集団アイデンティティと記憶、政治」  
(9月28日) Saeyong Park (ライデン大学講師、朝鮮研究)
- 第5回 「大越と明王朝：大越・明間の外交と貿易」  
(10月05日) Kathelene Baldanza (ペンシルベニア州立大学助教授、歴史とアジア研究)
- 第6回 「国境警備、移住、冒険者たち：朝鮮と清朝中国間の国境地帯をフロンティア」  
(10月12日) Seonmin Kim (高麗大学准教授、満洲研究)
- 第8回 「美意識、アートワーク、文化移植：朝鮮の陶芸と東アジア」  
(10月26日) Seung Yeon Sang (ハーバード大学美術館、キュレーター、東アジア芸術)
- 第9回 「17世紀の東アジアと世界：キリスト教と前近代の東アジア」  
(11月02日) Luke Clossey (サイモンフレーザー大学准教授、世界歴史)
- 第10回 「18世紀の東アジア：清朝中国の覇権と東アジア」  
(9月09日) Jiyoung Lee (アメリカン大学助教授、東アジアの国際関係)
- 第11回 「近代への過渡期における海洋貿易：海国中国と東南アジア」  
(9月16日) Gang Zhao (アクロン大学准教授、中国史)
- 第12回 「グローバリゼーションと東アジア：現代の東アジアとワンアジア共同体」  
(11月23日) Tony Liu (中興大学非常勤講師、国際関係論)
- 第13回 「結論：ワンアジア共同体の歴史ビジョン」  
(11月30日) Nam-lin Hur (ブリティッシュ・コロンビア大学教授) or 鄭俊坤 (ワンアジア財団)

※講義日程および内容は講師の都合等により変更になることがあります。